

ごち網漁業

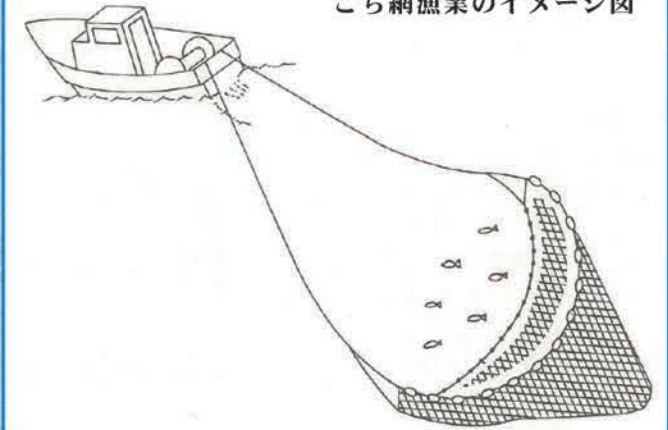
操業中の主な特徴等

- ・揚網中の漁船は、**見張りが十分にできない**ことがあります**注意が必要です**。
- ・曳網、揚網中の漁船は急に舵を切ると転覆の可能性があるため**操船の自由が利かず、避航動作が困難**な場合があります**注意が必要です**。
- ・揚網中の漁船は網の張りや海底障害物への網のかかり等から、**後進**することがあり**注意が必要です**。
- ・2隻で曳網している場合、**その間を航行すると非常に危険**です。
- ・航海灯等の他に**黄色などの回転灯**を点けている漁船が多く、見張りの目安になります。

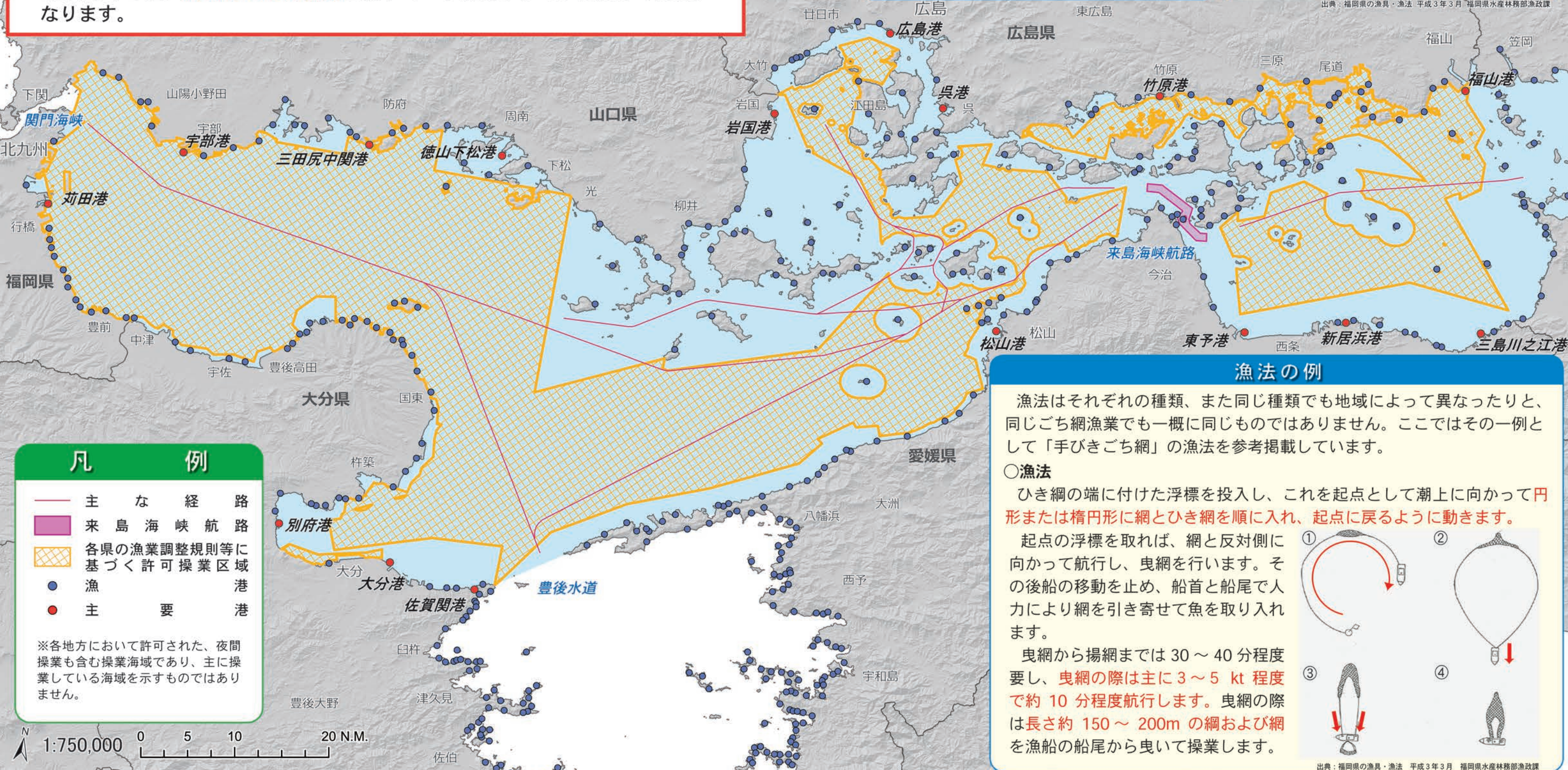
ごち網漁業とは

手拭状で中央部の膨らむ網と、その両端に結びつけたひき網で包囲形をつくり、それを狭めて魚を獲る漁業です。
瀬戸内海西方海域で行われるごち網漁は、主に船型3～5トン未満の漁船1隻で行われ、1～2名が乗っています。漁は地域によって様々な時期、時間帯に行われます。

ごち網漁業のイメージ図



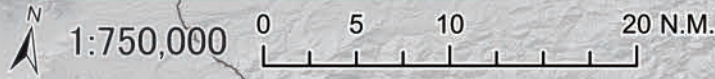
出典：福岡県の漁具・漁法 平成3年3月 福岡県水産林務部漁政課



凡 例

- 主 な 経 路
- 来 島 海 峡 航 路
- ▨ 各 県 の 漁 業 調 整 規 則 等 に 基 づ く 許 可 操 業 区 域
- 漁 港
- 主 要 港

※各地方において許可された、夜間操業も含む操業海域であり、主に操業している海域を示すものではありません。



漁法の例

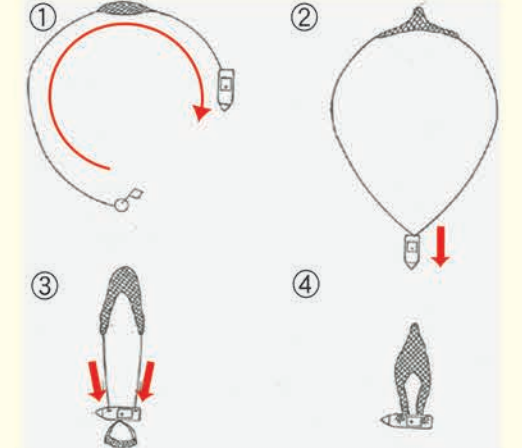
漁法はそれぞれの種類、また同じ種類でも地域によって異なったりと、同じごち網漁業でも一概に同じものではありません。ここではその一例として「手びきごち網」の漁法を参考掲載しています。

○漁法

ひき網の端に付けた浮標を投入し、これを起点として潮上に向かって円形または楕円形に網とひき網を順に入れ、**起点に戻るよう**に動きます。

起点の浮標を取れば、網と反対側に向かって航行し、曳網を行います。その後船の移動を止め、船首と船尾で人力により網を引き寄せ魚を取り入れます。

曳網から揚網までは30～40分程度要し、**曳網の際は主に3～5 kt程度で約10分程度航行**します。曳網の際は長さ約**150～200m**の網および網を漁船の船尾から曳いて操業します。



出典：福岡県の漁具・漁法 平成3年3月 福岡県水産林務部漁政課

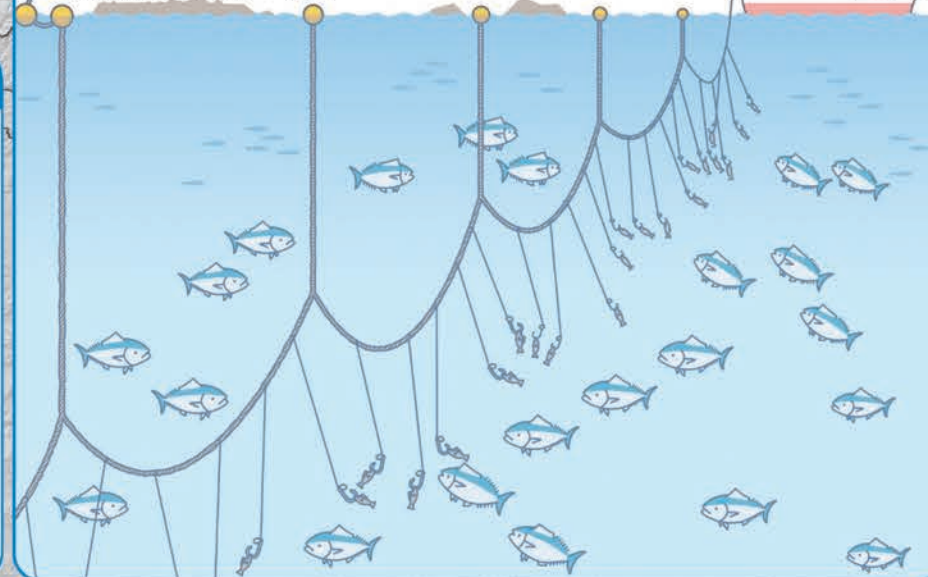
操業中の主な特徴等

- ・揚縄中の漁船は、**見張りが十分にできない**ことがあります**注意が必要です**。
- ・投縄、揚縄中の漁船は急に舵を切ると転覆の可能性があるため**操船の自由が利かず、避航動作が困難**な場合があります**注意が必要です**。
- ・揚縄中の漁船はワイヤーの張りや海底障害物への縄のかかり等から、**後進することがあり注意が必要です**。
- ・**幹縄には両端または一定の間隔で浮標が設置されていますので、十分に注意して避航して下さい**。
- ・地域・対象魚種によって**縄の長さおよび中間浮標の有無は様々**です。
- ・航海灯等の他に**黄色などの回転灯**を点けている漁船が多く、見張りの目安になります。

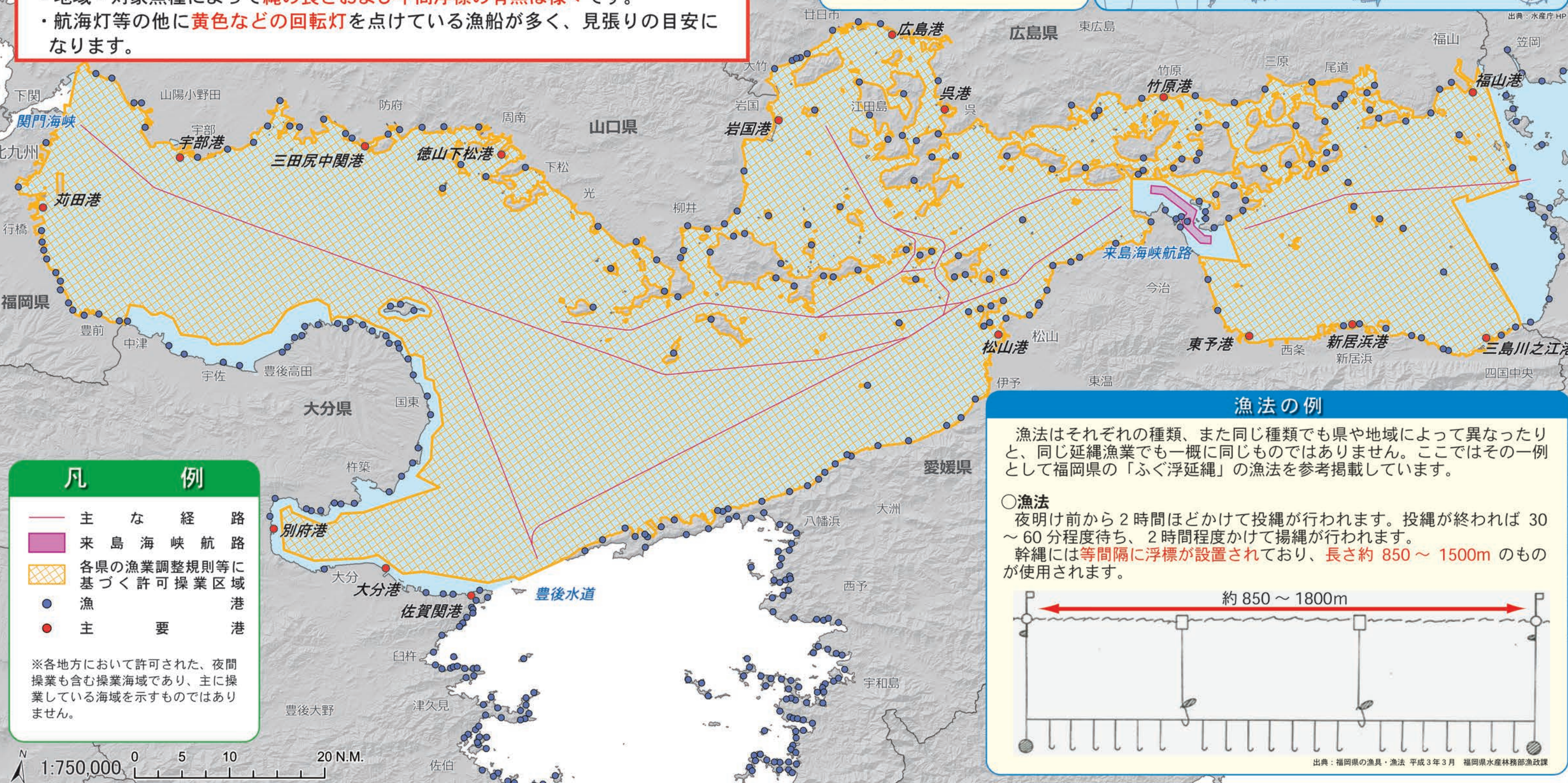
延縄漁業とは

一本の幹縄にたくさんの延縄をつけて、延縄の先端に釣り針をつけた漁具で魚を獲る漁法です。
瀬戸内海西方海域で行われる延縄漁業は、主に船型5～20トン未満の漁船で行われ、2～7名が乗っています。魚は地域によって様々な時期、時間帯に行われます。

延縄漁業のイメージ図



出典：水産庁 HP



凡 例

- 主 　　な 　　経 　　路
- 来 島 海 峡 航 路
- 各 県 の 漁 業 調 整 規 則 等 に 基 づ く 許 可 操 業 区 域
- 漁 港
- 主 要 港

※各地方において許可された、夜間操業も含む操業海域であり、主に操業している海域を示すものではありません。

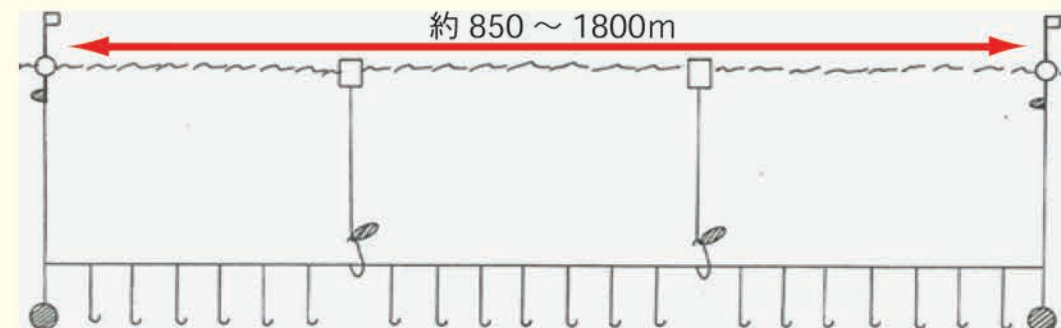


漁法の例

漁法はそれぞれの種類、また同じ種類でも県や地域によって異なったりと、同じ延縄漁業でも一概に同じものではありません。ここではその一例として福岡県の「ふぐ浮延縄」の漁法を参考掲載しています。

○漁法

夜明け前から2時間ほどかけて投縄が行われます。投縄が終われば30～60分程度待ち、2時間程度かけて揚縄が行われます。
幹縄には等間隔に浮標が設置されており、長さ約850～1500mのものが使用されます。



出典：福岡県の漁具・漁法 平成3年3月 福岡県水産林務部漁政課